



被災地の妊産婦さんとみなさんをつなぐ
東北こそだてレター (被災地の今...)

2013/12/16 配信 vol.16

～ベビースマイル石巻が内閣総理大臣表彰を受賞されました！～

◆ 支援実績 (2013/11/30 現在)

<支援母子数>

- ・2013年11月計 817組
- ・プロジェクト開始より累計 9,335組 (2012/7～2013/11)

<活動場所>

- ・岩手 (大船渡、陸前高田、花巻、釜石、大槌、遠野、宮古、久慈)
- ・宮城 (石巻、東松島、女川、気仙沼、亶理、名取、仙台)
- ・福島 (いわき、相馬、南相馬)
- ・福島 (伊達、二本松、須賀川、白河、郡山、猪苗代町)
- ・新潟 (長岡)
- ・埼玉 (川越)・神奈川 (横浜)・東京 (中野)

<活動内容>

育児相談会／茶話会／ベビーマッサージ／ベビー体操／
ママのリフレッシュ体操／親子ピクス／仮設巡回訪問

みなさま、こんにちは。
一般社団法人ジェスペールです。

今年もあとわずかですね。正月休み前の業務進行や、忘年会でご多忙のことと思いますが、多忙と食べ過ぎによる体調不良にはくれぐれもご注意ください。

さて、今回のトップニュースはベビースマイル石巻の内閣総理大臣表彰受賞です。東京里帰りプロジェクト以来、共に活動してきた私達にとっても大変うれしいお知らせです。

荒木さんは、現役ママでありながら、震災後同じママたちを支える母子サロンの運営に奔走し続けてきた方です。

国に活動を認めていただいた、評価していただいたということで、これまでの代表の荒木さんはじめ、ベビースマイ

ル石巻関係者の方達のご苦勞も報われたように思います。

また、メールマガジン開始から、各地の団体代表から寄せられる声をまとめて、「被災地から」を作成して下さった平地さんの編集後記もご覧いただけます。

東京里帰りプロジェクトのメールレターから、被災地母子支援活動を見守り続けてきた方の声をご覧ください。

被災地での「これから」と「今」、そして「未来」。どうぞ最後まで、ご覧ください。

◆ ベビースマイル石巻が、内閣府の「子ども若者育成・子育て支援功労者表彰」

<子育て・家族支援部門>にて、内閣総理大臣表彰を受賞されました！

<http://www8.cao.go.jp/youth/ikusei/support/h25/index.html>

「子ども若者育成・子育て支援功労者表彰」は、内閣府が、子ども・若者の健やかな成長に資することを目的に、子ども・若者を育成支援する活動及び子育てと子育てを担う家族を支援する活動に取り組み顕著な功績があった企業、団体又は個人を表彰しているものです。

このたび、ベビースマイル石巻が、<子育て・家族支援部門>にて、内閣総理大臣表彰を受賞されました。

受賞理由は、『震災後、孤立する妊婦や未就園親子が多い中、現役のママたちが、育児や産前産後の不安を共有できる場としてサロンを毎月10数回開催。』



支援物資や虐待、遊び場の確保などの課題解決のため、毎月、行政、助産師、医療関係者などに呼びかけ「Bond BornCafe」を開催するなど、現在も仮設住宅などで活動し、子育て支援の推進に多大な貢献をしている。』というものです。

表彰式は、平成 25 年 11 月 20 日（水）に、総理大臣官邸大ホールにおいて執り行われ、ベビースマイル石巻代表の荒木裕美さんも出席されました。



◆ 「被災地から」担当による編集後記（平地紘子）

アメリカ・ワシントン DC からこんにちは。

被災地で生きる母たちの様子や、その母たちを支える助産師さんたちの姿をつづってきた「被災地から」の担当、平地紘子です。

震災半年後の 2011 年秋に夫の転勤でアメリカに来ましたが、ジェスペールの前身「東京里帰りプロジェクト」でメールレター「おさとだより」を担当していたことから、ジェスペールへ移行後も、アメリカにて「被災地から」の原稿を担当してきました。



タイトルは「被災地から」ですが、もちろん、私が被災地に行くことはできません。そこで、こちらが作成した質問項目を被災地の助産師さんたちに送って記入してもらい、その回答を元に原稿をつくるという方法を取りました。

被災地各地から届く助産師さんの回答はいつも小さな文字でびっしりと埋まり、被災地で母と子を支える彼女たちの熱い思いや使命感、母子たちにまっすぐに向き合う姿がにじみ出ていました。そして、そこに描かれている被災地の母たちの本音や苦悩——。私の心は何度も強く揺さぶられたものです。

渡米するまでの 10 年間、新聞記者として原稿を書いてきた私ですが、伝えたいことを持っている人の文章ほど、そして熱い思いのこもった文章ほど、心に響く文章はないと思い知らされました。その文章をできるだけそのまま読者の皆さまに伝えたいと思い、極力、文章に手を入れないように心がけてきました。もともとの文章が持つ温度感をそのまま伝えられるように。

震災からまもなく 3 年を迎えようとしている今、一番強く思うのは、ジェスペールが現在やっているサポート、そして、現地で母子を支えている助産師さんやスタッフたちがやっている活動を、“被災地のため”の特別なものとして終わらせてはいけないということです。

震災後という特別な時期に、被災地という特別な場所ではじまったサポートではあるけれど、その内容は、どの母子にも必要なものです。どの地域でも、誰でも、日常的に受けられる“当たり前”の母子支援として各地に広がり、根付いてほしいと思うのです。



被災地で支援にあたっている助産師さんやスタッフ、それを支えるジェスペールの皆さまの体力的、物理的な負担と心理的負担は、相当なものだと思います。

ただただ、頭が下がるばかりです。苦勞し、時間をかけて作り上げてきたこの母子支援の仕組みが、“被災”の枠を飛び出して大きく広がっていくことを願っています。

「被災地から」を担当する機会を与えていただいたことに、そして、「被災地から」を通じて出会った方たちに心から感謝しつつ、私自身も、アメリカの地でできることを続けていきたいと思っています。



◆ 企業様からの支援紹介

http://tohokumama.org/donation-report/#jespere_20131119

いつもジェスペールを支えてくださる2つの企業様からいただいたご支援を紹介します。

■ 西友様・・・西友レジ募金 10 月度発表 西友レジ募金の 10 月度発表がありました。

「レジ募金」は、西友でお客様がレジでアソシエイトにレジ募金カードを手渡し、いくら募金したいかを告げることで、お客様が自分で決めた金額をお買い物の精算に合わせて、募金できるという仕組みです。

募金して頂きました皆様、誠にありがとうございました。
今後も、西友レジ募金を通じてご協力をお願い致します。

<http://www.seiyu.co.jp/company/sustainability/activity/community4.php>



■ 千趣会様・・・『おくるみ』150 枚を寄贈して頂きました

千趣会様の「ハハトコ東北プロジェクト」より、福島県助産師会へ千趣会オリジナルの『おくるみ』150 枚を寄贈いただきました。福島県内 9 か所のサロンやクリニックで配布されました。

千趣会様には、これまでベビースマイル石巻、こそだてシップ、まんまるにもご支援いただいています。

※ハハトコ東北プロジェクトサイトは下記

<http://www.egaono-mori.jp/hahatoko/>



◆ プロジェクト応援のお願い

ジェスペールの「東北こそだてプロジェクト」は、被災地の母子を支援する助産師の活動を支援しています。

皆様からいただいた温かいご支援は活動の原動力となっています。

被災地の母子を今後も継続してサポートしていくため、妊産婦支援に関するお志を同じくするお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ぜひ下記サイトをご紹介ください。

<http://tohokumama.org/donation/>

また、皆様からの励ましのお声も、現地の助産師や被災地で子育て中のお母さん、ジェスペールメンバーの力になります。ご寄付いただく際に励ましのお言葉を添えていただいたり、当メールマガジンへのご感想などをお寄せください。



発行者： 一般社団法人ジェスペール

公式ホームページ：<http://tohokumama.org/>

Twitter：<https://twitter.com/tohokumama>

お問い合わせ先：info@tohokumama.org

Facebook：<http://www.facebook.com/tohokumama>

